

DENON®

PMA-1700NE
Integrated Amplifier

取扱 説明書

目次

使用上のご注意	4
携帯電話使用時のご注意	4
お手入れについて	4
結露(つゆつき)について	4
付属品	5
乾電池の入れかた	6
リモコンの使いかた	6
各部の名前	7
フロントパネル	7
リアパネル	10
リモコン	12
接続のしかた	
スピーカーを接続する	17
スピーカー接続	19
バイワイヤリング接続	20
再生機器を接続する	21
録音機器を接続する	22
デジタル音声出力端子付きの機器を接続する	23
パソコンまたは Mac と接続する	24
プリアンプを接続する	25
電源コードを接続する	26

再生のしかた

電源を入れる	28
電源をスタンバイにする	28
入力ソースを選ぶ	29
音量を調節する	29
一時的に音を消す(ミュートイング)	29
音質および音量バランスを調節する	29
ディスプレイの明るさを切り替える	30
CD を再生する	31
パソコンと接続して再生する(USB-DAC)	32
デジタル機器と接続して再生する(Coaxial/Optical 1/ Optical 2)	41
録音する	42

設定のしかた

テレビの自動再生機能を設定する	43
オートスタンバイモードを設定する	44

困ったときは

こんなときの解決方法	46
故障かな?と思ったら	47
電源が入らない / 電源が切れる	48
リモコンで操作ができない	49
本機のディスプレイが表示されない	49
音がまったく出ない	50
希望する音が出ない	50
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	51
パソコン内や Mac 内の音楽ファイルが再生できない	52
デジタル機器の音声を再生できない(Coaxial/Optical)	53
入力ソースが“Optical 1”、“Optical 2”または “Coaxial”に切り替わる	53
保証と修理について	54

付録

D/A コンバーターについて	56
用語の解説	56
主な仕様	58
索引	61

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1~2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット





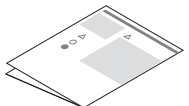
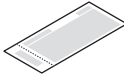

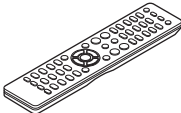

音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

お買い上げいただきありがとうございます。本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに「安全にお使いいただくために」・「保証書」とともに大切に保管してください。

付属品

ご使用になる前にご確認ください。

 かんたんスタートガイド	 取扱説明書(本書)	 安全にお使いいただくために	 保証書
 電源コード(本機専用)	 リモコン (RC-1249)	 単4形乾電池(2本)	

目次

接続のしかた

再生のしかた

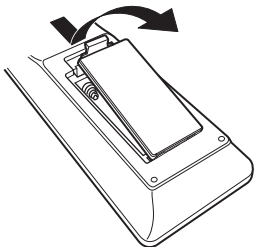
設定のしかた

困ったときは

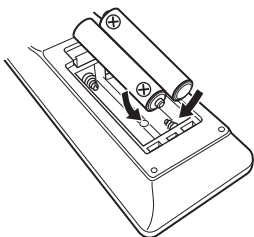
付属

乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



- 2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



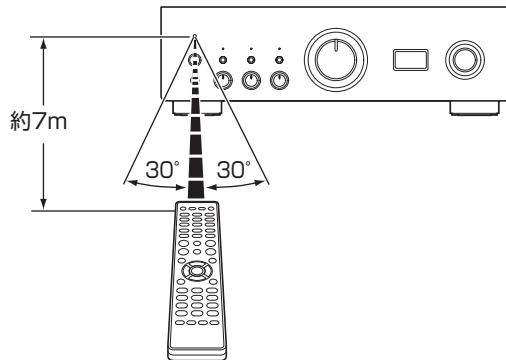
- 3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

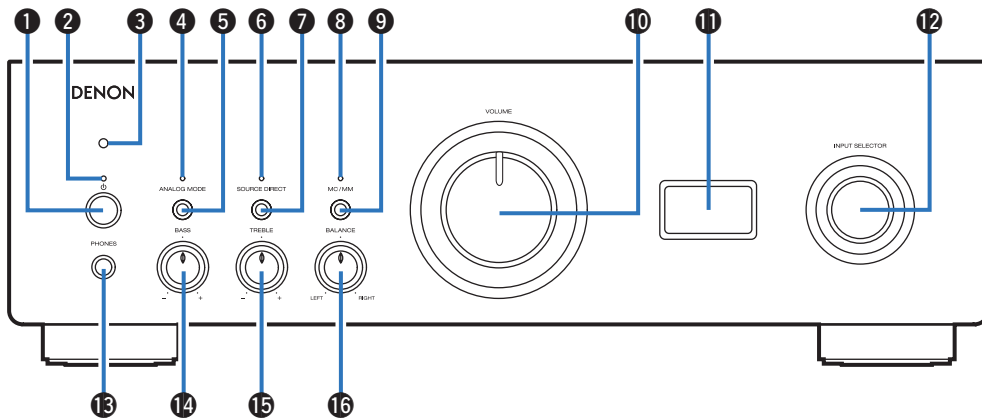
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。



各部の名前

フロントパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。

目次

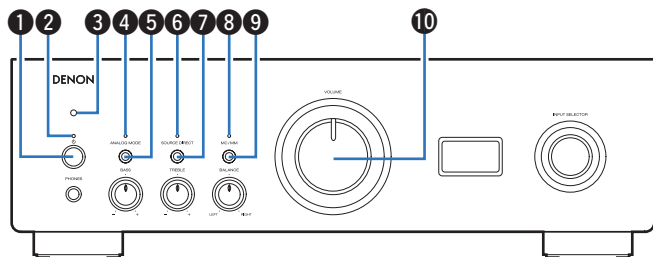
接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録



① 電源ボタン(⏻)

電源をオン/オフします。(P.28 ページ)

② 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 緑色
- スタンバイ時: 消灯
- 電源オフ時: 消灯
- 保護回路動作時: 赤色(点滅) (P.48 ページ)

③ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。(P.6 ページ)

④ アナログモード表示(ANALOG MODE)

アナログモードの状態によって、次のように点灯します。

- アナログモードオン(ANALOG MODE 1 または 2)時: 緑色
- アナログモードオフ時: 消灯

⑤ アナログモードボタン(ANALOG MODE)

アナログモードの設定をします。(P.31 ページ)

⑥ ソースダイレクト表示(SOURCE DIRECT)

ソースダイレクトモードの状態によって、次のように点灯します。

- ソースダイレクトモードオン時: 緑色
- ソースダイレクトモードオフ時: 消灯

⑦ ソースダイレクトボタン(SOURCE DIRECT)

ソースダイレクトモードの設定をします。(P.31 ページ)

⑧ MC/MM 表示

本機のフォノイコライザーの設定によって、次のように点灯します。

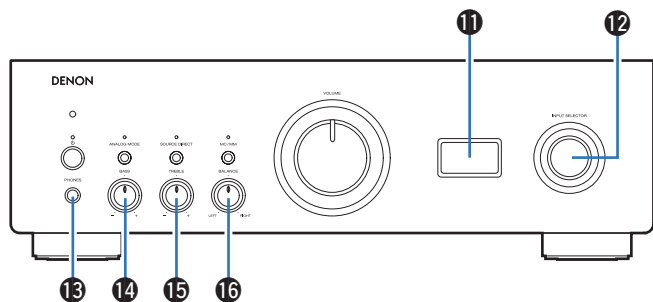
- MC: 緑色
- MM: 消灯

⑨ MC/MM ボタン

レコードプレーヤーのカートリッジの種類(MC または MM)に合わせて切り替えます。

⑩ 音量調節つまみ(VOLUME)

音量を調節します。(P.29 ページ)



11 ディスプレイ

入力ソース名やデジタル音声信号の種類およびサンプリング周波数など、各種情報を表示します。

12 入力ソース選択つまみ (INPUT SELECTOR)

入力ソースを切り替えます。(P.29 ページ)

ご注意

- 入力ソースを“EXT.PRE”に切り替え、プリアンプを接続して本機をパワーアンプとして使う場合、本機の音量が最大になり音量調節およびバランス調節がはたらかなくなります。再生する前に入力側の機器の出力レベルを確認し、音量を調節してください。

13 ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカー端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

14 低音調節つまみ (BASS)

低音の音量を調節します。(P.29 ページ)

15 高音調節つまみ (TREBLE)

高音の音量を調節します。(P.29 ページ)

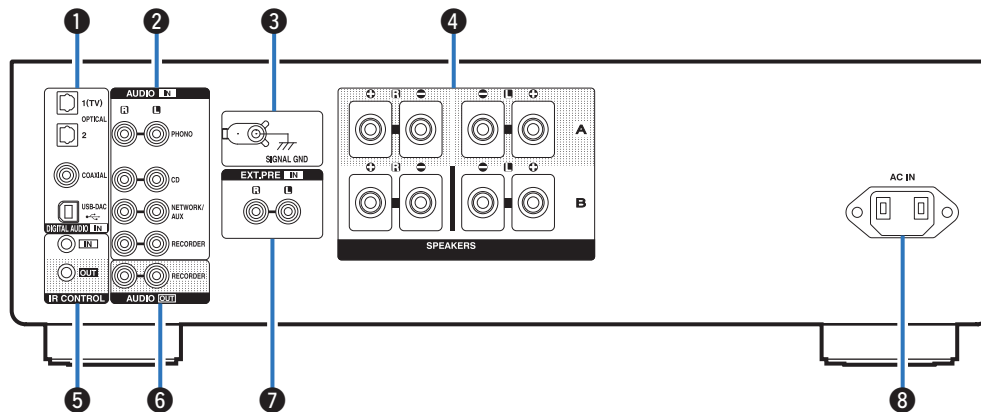
16 バランス調節つまみ (BALANCE)

左右のスピーカーから出力する音量のバランスを調節します。(P.29 ページ)

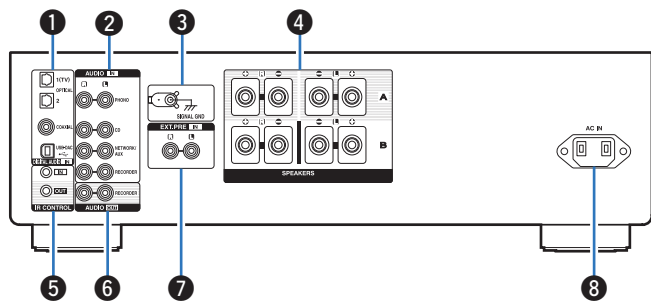


- 14、15 および 16 は 6 が消灯(ソースダイレクトモードがオフ)のときに調節できます。

リアパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



① デジタル音声入力端子(DIGITAL AUDIO IN)

デジタル音声出力端子付きの機器やパソコンを接続します。

- 「デジタル音声出力端子付きの機器を接続する」(P.23 ページ)
- 「パソコンまたは Mac と接続する」(P.24 ページ)

② アナログ音声入力端子(AUDIO IN)

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。

- 「再生機器を接続する」(P.21 ページ)
- 「録音機器を接続する」(P.22 ページ)

③ アース端子(SIGNAL GND)

レコードプレーヤーのアース線を接続します。(P.21 ページ)

④ スピーカー端子(SPEAKERS)

スピーカーを接続します。(P.17 ページ)

⑤ IR コントロール端子(IR CONTROL)

IR コントロール端子付きの Denon 製ネットワークオーディオプレーヤーを接続します。

⑥ アナログ音声出力端子(AUDIO OUT)

録音機器の入力端子を接続します。(P.22 ページ)

⑦ エクスターナルプリアンプ入力端子(EXT.PRE IN)

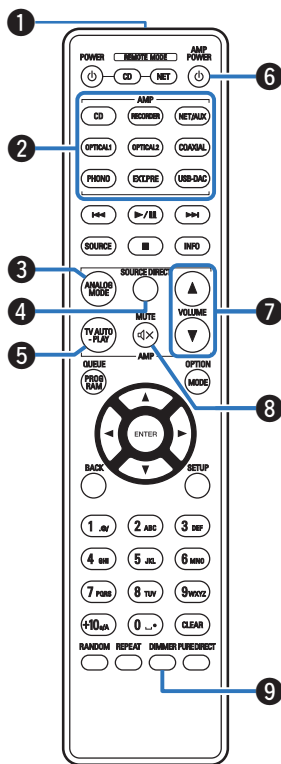
本機をパワーアンプとしてご使用になる場合に、プリアンプを接続します。(P.25 ページ)

音量の調節は、接続する機器でおこなってください。

⑧ AC インレット(AC IN)

電源コードを接続します。(P.26 ページ)

リモコン

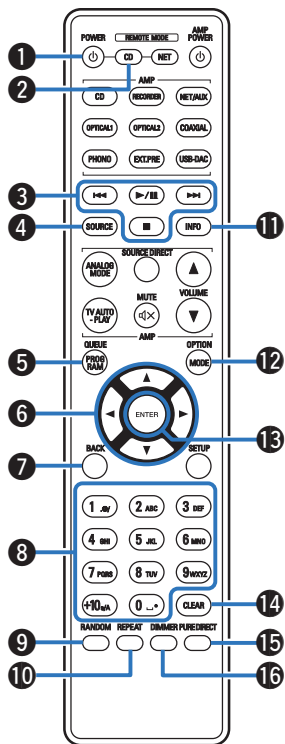


付属のリモコンは本機だけでなく、Denon 製 CD プレーヤーおよびネットワークオーディオプレーヤーも操作できます。

- 「CD プレーヤーの操作」(P.13 ページ)
- 「ネットワークオーディオプレーヤーの操作」(P.14 ページ)

■ 本機の操作

- 1 リモコン信号送信窓**
リモコンの信号を送信します。(P.6 ページ)
- 2 入力ソース切り替えボタン**
入力ソースを切り替えます。(P.29 ページ)
- 3 アナログモードボタン (ANALOG MODE)**
アナログモードの設定をします。(P.31 ページ)
- 4 ソースダイレクトボタン (SOURCE DIRECT)**
ソースダイレクトモードの設定をします。(P.31 ページ)
- 5 テレビ自動再生ボタン (TV AUTO-PLAY)**
テレビ自動再生機能の設定をします。(P.43 ページ)
- 6 電源ボタン (AMP POWER)**
本機の電源をオン/オフ (スタンバイ) します。(P.28 ページ)
- 7 音量調節ボタン (VOLUME ▲▼)**
音量を調節します。(P.29 ページ)
- 8 ミュートボタン (MUTE)**
消音します。(P.29 ページ)
- 9 ディマーボタン (DIMMER)**
ディスプレイの明るさを調節します。(P.30 ページ)



■ CD プレーヤーの操作

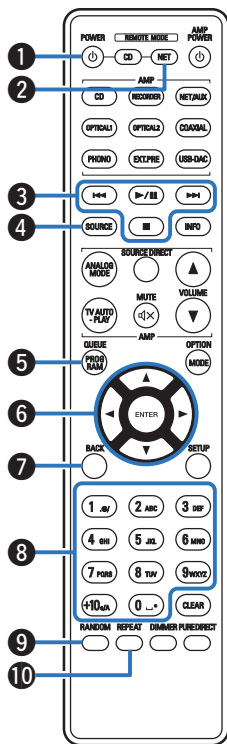
Denon 製 CD プレーヤーを操作できます。

CD プレーヤーを操作するときは、リモートモード切り替えボタン(REMOTE MODE CD)を押して、リモコンを CD プレーヤーの操作モードに切り替えます。

- ① 電源ボタン(POWER $\text{\textcircled{P}}$)
- ② リモートモード切り替えボタン
(REMOTE MODE CD)
- ③ システムボタン
- ④ 入カソース選択ボタン(SOURCE)
- ⑤ プログラムボタン(PROGRAM)
- ⑥ カーソルボタン(Δ ∇ \triangleleft \triangleright)
- ⑦ バックボタン(BACK)
- ⑧ 数字ボタン(0 ~ 9,+10)
- ⑨ ランダムボタン(RANDOM)
- ⑩ リピートボタン(REPEAT)
- ⑪ インフォメーションボタン(INFO)
- ⑫ モードボタン(MODE)
- ⑬ エンターボタン(ENTER)
- ⑭ クリアボタン(CLEAR)
- ⑮ ピュアダイレクトモードボタン(PURE DIRECT)
- ⑯ ディマーボタン(DIMMER)



• 一部操作ができない製品もあります。

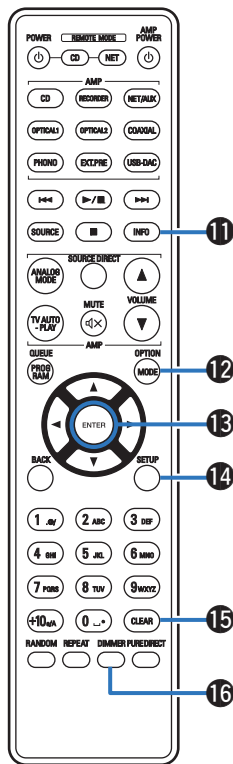


■ ネットワークオーディオプレーヤーの操作

Denon 製ネットワークオーディオプレーヤーを操作できません。

ネットワークオーディオプレーヤーを操作するときは、リモートモード切り替えボタン(REMOTE MODE NET)を押して、リモコンをネットワークオーディオプレーヤーの操作モードに切り替えます。

- ① 電源ボタン(POWER ϕ)
- ② リモートモード切り替えボタン (REMOTE MODE NET)
- ③ システムボタン
- ④ 入力ソース選択ボタン(SOURCE)
- ⑤ キューリスト呼び出しボタン(Queue)
- ⑥ カーソルボタン($\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$)
- ⑦ バックボタン(BACK)
- ⑧ 数字/文字ボタン(0~9、+10)
- ⑨ ランダムボタン(RANDOM)
- ⑩ リピートボタン(REPEAT)



- ① インフォメーションボタン(INFO)
- ② オプション/モードボタン(OPTION/MODE)
- ③ エンターボタン(ENTER)
- ④ セットアップボタン(SETUP)
- ⑤ クリアボタン(CLEAR)
- ⑥ ディマーボタン(DIMMER)



• 一部操作ができない製品もあります。

接続のしかた

■ 目次






スピーカーを接続する	17
再生機器を接続する	21
録音機器を接続する	22
デジタル音声出力端子付きの機器を接続する	23
パソコンまたは Mac と接続する	24
プリアンプを接続する	25
電源コードを接続する	26

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。

■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
オーディオケーブル	
光伝送ケーブル	
同軸デジタルケーブル	
USB ケーブル	

スピーカーを接続する

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(P.57 ページ))
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- スピーカーは次のインピーダンスのものをお使いください。

ご使用になる本機のスピーカー端子	接続するスピーカー数	スピーカーインピーダンス
SPEAKERS A (標準的な接続)	2本(1組)	4~16Ω
SPEAKERS B	2本(1組)	4~16Ω
SPEAKERS A および SPEAKERS B	4本(2組)	8~16Ω
SPEAKERS A および SPEAKERS B (バイワイヤリング接続時)	2本(1組)	4~16Ω

■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+ (赤)、- (黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



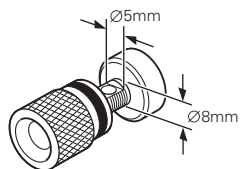
- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



4 スピーカー端子を右に回して締める。

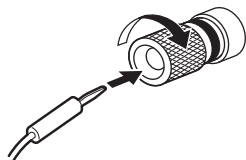


スピーカー端子の寸法



バナナプラグの場合

端子を右に回して締め付けてから挿入する。

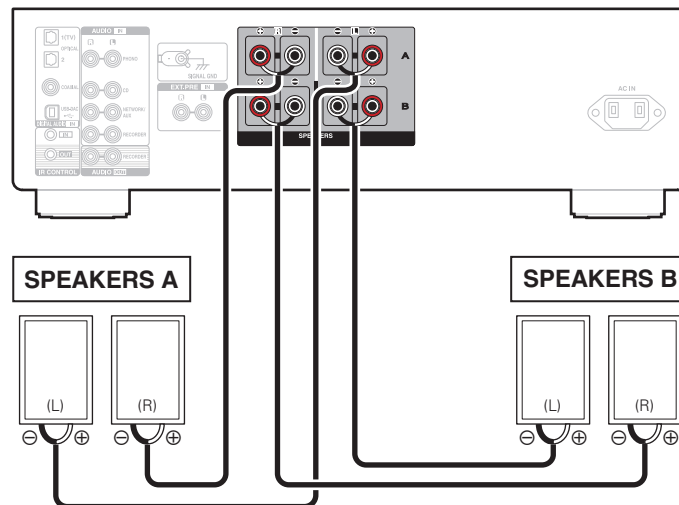


スピーカー接続

本機には、2 系統のスピーカー端子 (SPEAKER A および SPEAKER B) があります。それぞれに 1 組ずつ、最大 2 組のスピーカーを接続できます。

SPEAKERS A 端子および SPEAKERS B 端子からは同じ信号を出力します。

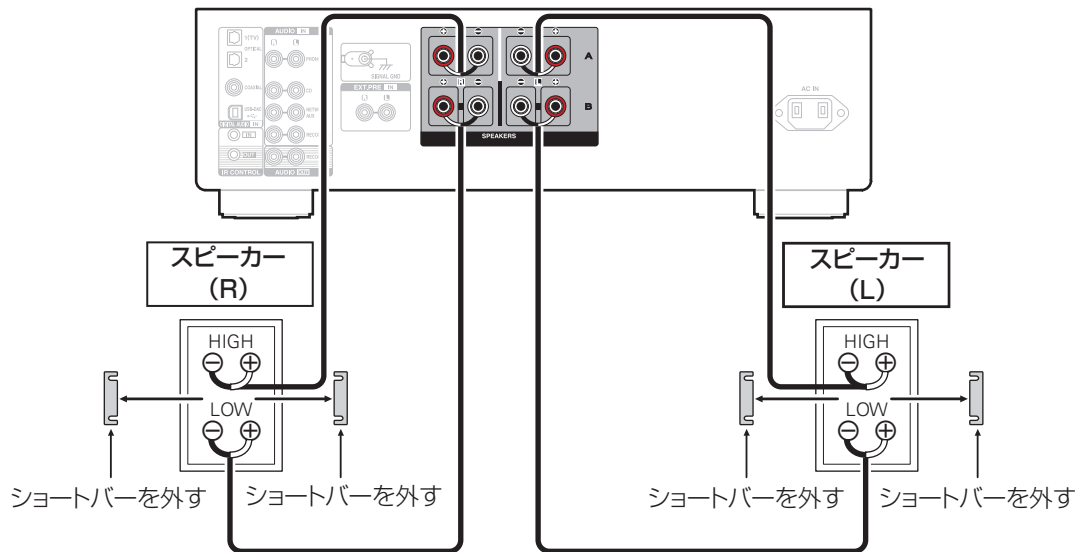
スピーカーを 1 組のみ接続するときは、SPEAKERS A または SPEAKERS B 端子のどちらかに接続してください。



バイワイヤリング接続

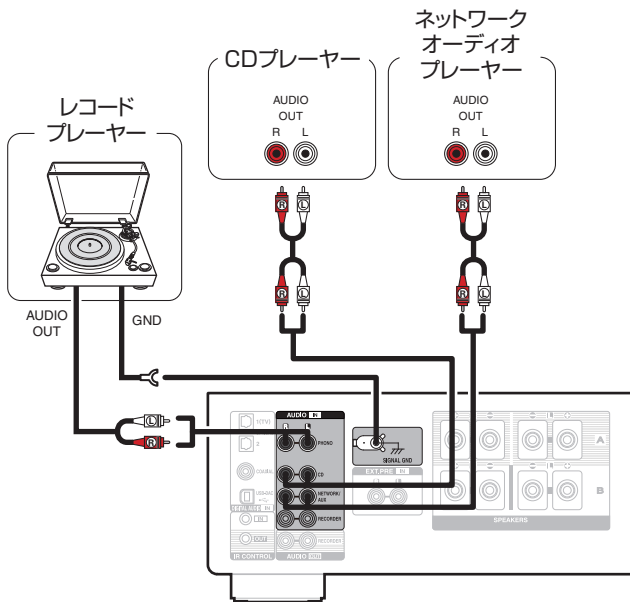
この接続では高域用スピーカー(ツイーター)と低域用スピーカー(ウーファー)間の信号が干渉することによる音質への影響をおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

バイワイヤリング接続に対応しているスピーカーの高域入力端子と SPEAKERS A(または SPEAKERS B)を、低域入力端子と SPEAKERS B(または SPEAKERS A)をそれぞれ接続してください。



再生機器を接続する

本機には、レコードプレーヤー、CDプレーヤーおよびネットワークオーディオプレーヤーを接続できます。
本機の入力ソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音が発生することがあります。



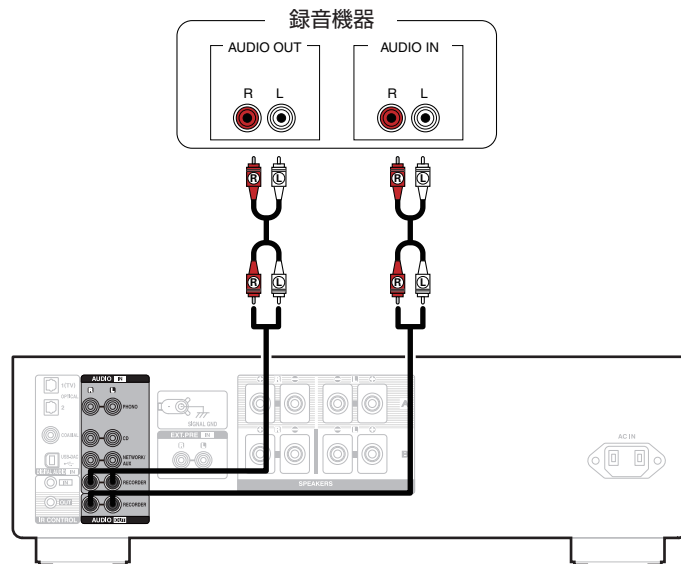
ご注意

- 本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。



- PHONO 入力端子にはショートピンプラグが付属しています。レコードプレーヤーを接続する際は外してください。外したショートピンプラグは大切に保管してください。

録音機器を接続する

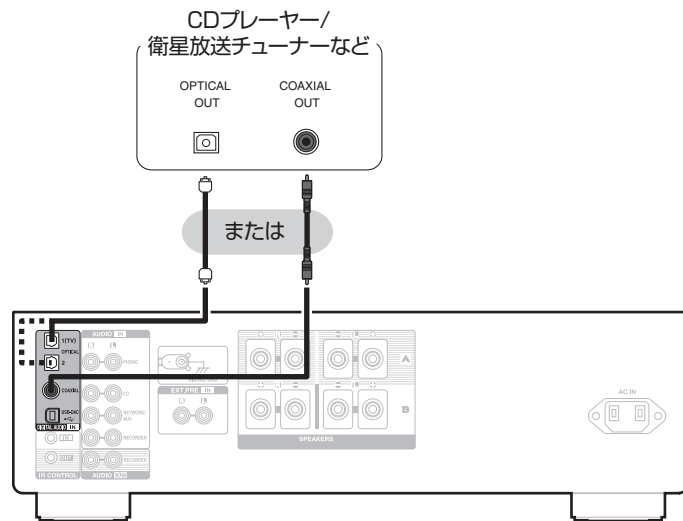


ご注意

- レコーダー出力端子(AUDIO OUT RECORDER)にショートピンプラグを挿入しないでください。故障の原因になります。

デジタル音声出力端子付きの機器を接続する

本機にデジタル音声信号を入力し、本機の D/A コンバーターで D/A 変換をおこなって再生する接続です。(P.32 ページ)



ご注意

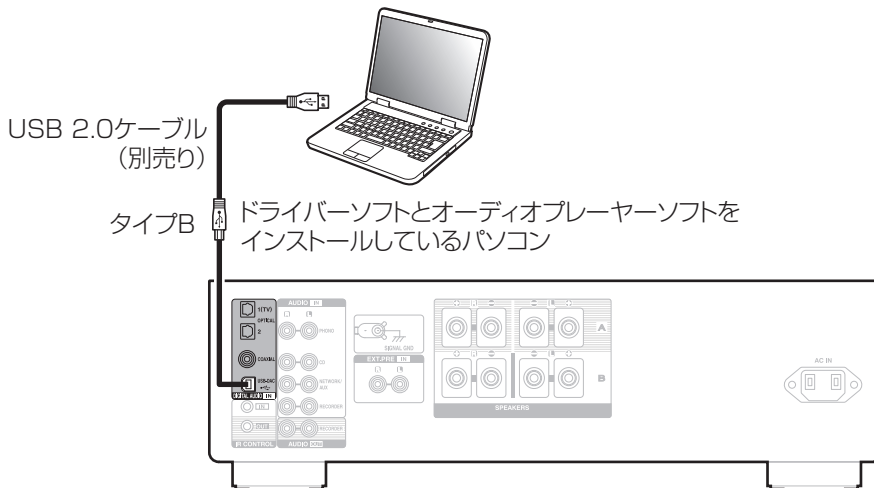
- 本機に入力できるのは、サンプリング周波数が 32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz のリニア PCM 信号です。
- ドルビーデジタル、DTS、AAC などのリニア PCM 以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーが破損する恐れがあります。
- 光デジタルケーブルを差し込む際は、本機の OPTICAL IN 端子とケーブルのプラグの向きを合わせてください。

パソコンまたは Mac と接続する

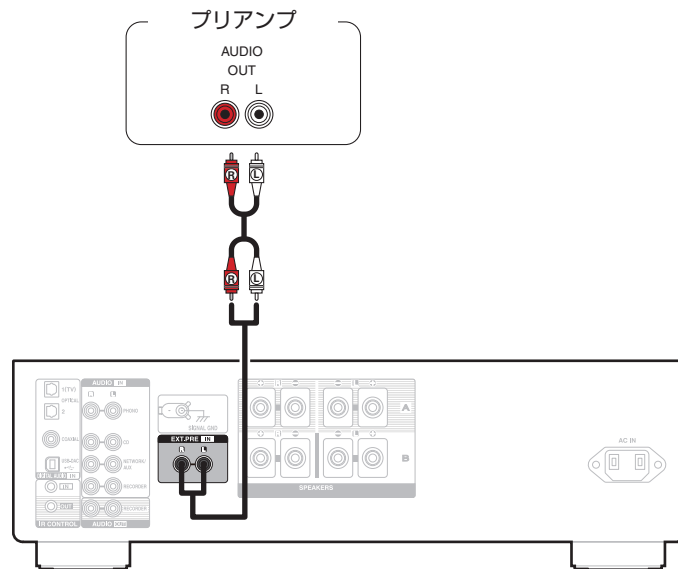
本機のリアパネルの USB 端子(USB-DAC)とパソコンを USB ケーブル(別売り)で接続すると、パソコンの音楽データを本機の D/A コンバーターで再生できます。(☞ 32 ページ)

ご注意

- 本機とパソコンを USB 接続する前にパソコンに専用ドライバーソフトをインストールしてください。(☞ 33 ページ)
- ドライバーソフトは当社ウェブサイトの PMA-1700NE のページからダウンロードしてください。
- パソコンとの接続には、3m 以下のケーブルをご使用ください。



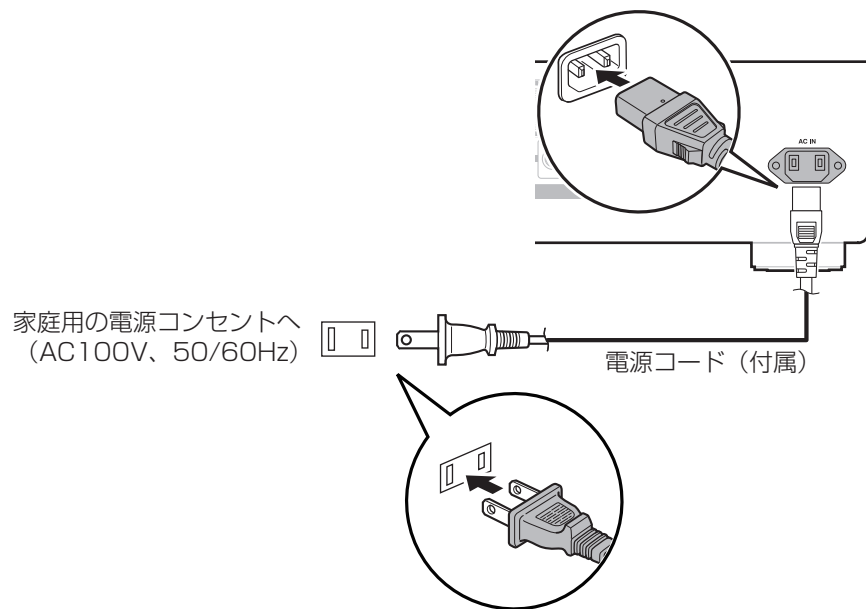
プリアンプを接続する



- EXT.PRE 入力端子にはショートピンプラグが付属しています。プリアンプを接続する際は外してください。外したショートピンプラグは大切に保管してください。

電源コードを接続する

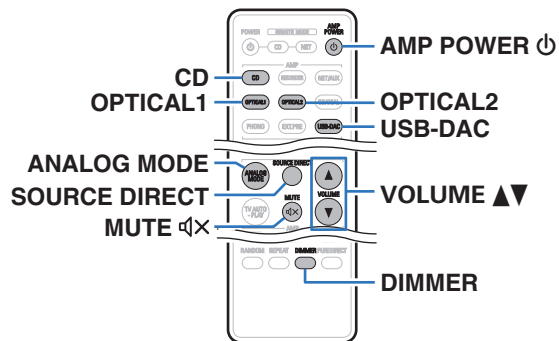
すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



再生のしかた

■ 目次

電源を入れる	28
電源をスタンバイにする	28
入力ソースを選ぶ	29
音量を調節する	29
一時的に音を消す(ミュート)	29
音質および音量バランスを調節する	29
ディスプレイの明るさを切り替える	30
CD を再生する	31
パソコンと接続して再生する(USB-DAC)	32
デジタル機器と接続して再生する(Coaxial/Optical 1/ Optical 2)	41
録音する	42



電源を入れる

- 1 本体の **AMP POWER** ボタンを押して電源を入れる。
電源表示が緑色に点灯します。

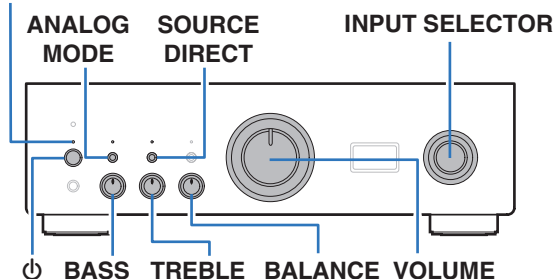


- スタンバイ状態から電源を入れるときは、リモコンの **AMP POWER** ボタンを押してください。

ご注意

- 電源を入れる前に、本体の音量調節つまみを回して、音量を最小にしてください。

電源表示



電源をスタンバイにする

- 1 **AMP POWER** ボタンを押す。
スタンバイ状態になります。

ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の **AMP POWER** ボタンを押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

入力ソースを選ぶ

1 入力ソース切り替えボタンを押して再生する入力ソースを選ぶ。

本体のディスプレイに選択した入力ソースを表示します。



- 本体の INPUT SELECTOR を回しても、入力ソースを選択できます。

音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して音量を調節する。




- 本体の VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュートイング)

1 MUTE を押す。

本体のディスプレイに“MUTE”を表示します。



- ミュートイングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE  を押してください。

音質および音量バランスを調節する

1 SOURCE DIRECT を押してソースダイレクトモードをオフにする。

SOURCE DIRECT 表示が消灯します。

2 本体の BASS、TREBLE および BALANCE を回して音質および音量バランスを調節する。

ディスプレイの明るさを切り替える

ディスプレイの明るさを 4 段階で調節できます。ディスプレイの明るさを消灯にすると、音質に影響を与えるノイズ源を抑え、高音質な再生ができます。

1 DIMMER を押す。

- ボタンを押すたびに、ディスプレイの明るさが切り替わります。



- お買い上げ時のディスプレイの明るさは、最も明るい設定です。
- ディマーボタン(DIMMER)は Denon 製 CD プレーヤーにもはたらきますので、本機と組み合わせて使う場合に明るさを一緒に調節できます。それぞれの明るさが異なる場合、DIMMER を 2 秒以上押して共に初期化し、明るさを揃えてから調節してください。

CDを再生する

ここでは、CDの再生のしかたを例に説明します。

1 入力ソース切り替えボタン(CD)を押して入力ソースを“CD”に切り替える。

本体のディスプレイに“CD”を表示します。

2 CDを再生する。

3 VOLUME ▲▼を押して音量を調節する。

■ ソースダイレクトモードで再生する

音声信号が音質調節回路(BASS, TREBLE, BALANCE)を通らないため、より原音に忠実な再生ができます。

1 SOURCE DIRECT を押してソースダイレクトモードをオンにする。

SOURCE DIRECT 表示が点灯します。

■ アナログモードで再生する

アナログ入力ソース(PHONO, CD, NET/AUX, RECORDER, EXT.PRE)を再生するときにアナログモードをオンにすると、ディスプレイおよびデジタル入力回路の電源がオフになります。これによりアナログ信号回路はデジタル制御回路から発生するノイズの影響を受けなくなり、高音質の音楽再生をお楽しみいただけます。

1 ANALOG MODE を押してアナログモードをオンにする。

ANALOG MODE 表示が点灯します。

- ANALOG MODE を押すたびに“ANALOG MODE Off”、“ANALOG MODE 1”そして“ANALOG MODE 2”が切り替わります。

ANALOG MODE Off:	アナログモードを使用しません。
ANALOG MODE 1:	デジタル入力回路の電源をオフにします。
ANALOG MODE 2:	ディスプレイおよびデジタル入力回路の電源をオフにします。



- アナログモードがオンのときはデジタル入力ソース(COAXIAL, OPTICAL 1/2, USB-DAC)を選択できません。
- デジタル入力ソース(COAXIAL, OPTICAL 1/2, USB-DAC)の再生中にアナログモードをオンにすると、入力ソースが自動的にCDに切り替わります。
- 本機のUSB-DAC入力端子にパソコンを接続しているときにアナログモードをオンにすると、本機とパソコンの通信を切断します。アナログモードをオフにしても通信できないときは、USBケーブルを抜き差しするか、パソコンのオーディオプレーヤーを再起動してください。
- アナログモードを切り替えると、約5秒間ミュートします。

パソコンと接続して再生する(USB-DAC)

パソコンに保存している音楽ファイルをUSB接続で本機に入力すると、本機に搭載しているD/Aコンバーターで、高音質な音楽再生をお楽しみいただけます。

- 本機とパソコンをUSB接続する前にパソコンに専用ドライバーソフトをインストールしてください。
- macOSをご使用の場合は、ドライバーソフトのインストールは必要ありません。
- パソコンの再生プレーヤーには市販品またはダウンロード可能な好みのプレーヤーソフトをご使用ください。

■ パソコン(動作環境)

OS

- Windows 10 および Windows 11
- macOS 11 および 12

USB

- USB 2.0: USB High speed/USB Audio Class Ver. 2.0

ご注意

- 当社ではこれらの動作環境で確認をしていますが、すべてのシステムでの動作を保証するものではありません。

- DSD は、登録商標です。
- Microsoft、Windows 10 および Windows 11 は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の登録商標です。
- Apple、Macintosh、macOS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

Windows
OS

専用ドライバーソフトのインストール(☞33 ページ)

macOS

オーディオ装置の確認(☞39 ページ)

■ 専用ドライバーソフトのインストール (Windows OS のみ)

□ パソコンへドライバーソフトをインストールする方法

1 本機とパソコンの USB 接続を解除する。

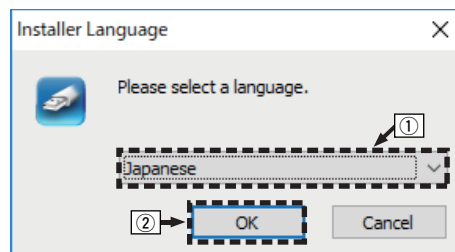
- 本機とパソコンを USB 接続しているとドライバーソフトを正しくインストールできません。
- パソコンにドライバーソフトをインストールする前に本機と USB 接続してパソコンを立ち上げた場合は、USB 接続を解除して、パソコンを再起動してください。

2 ご使用のパソコンに、当社ウェブサイト PMA-1700NE のページの“ダウンロード”から専用 ドライバーをダウンロードする。

3 ダウンロードファイルを解凍し、exe ファイルをダブル クリックする。

4 ドライバーソフトをインストールする。

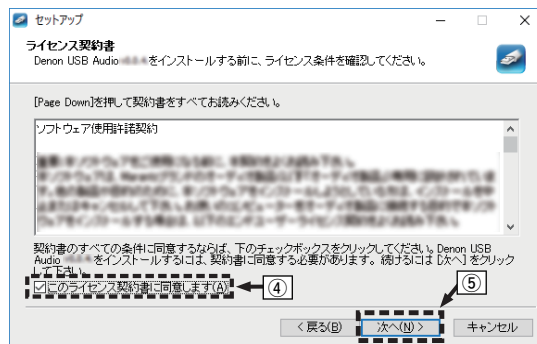
- ① インストール作業をおこなう言語を選ぶ。
- ② “OK”をクリックする。



- ③ ウィザードメニューが表示されたら“次へ(N)”をクリックする。

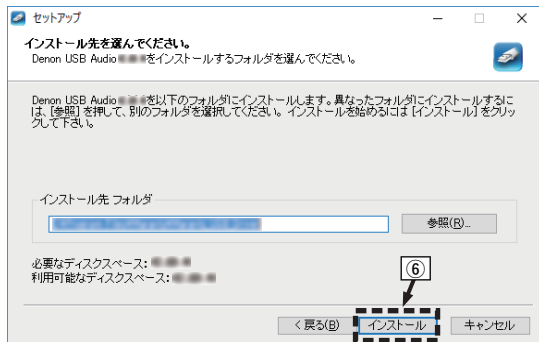


- ④ ソフトウェア使用許諾メニューを読み、“このライセンス契約書に同意します(A)”を選ぶ。
⑤ “次へ(N)”をクリックする。

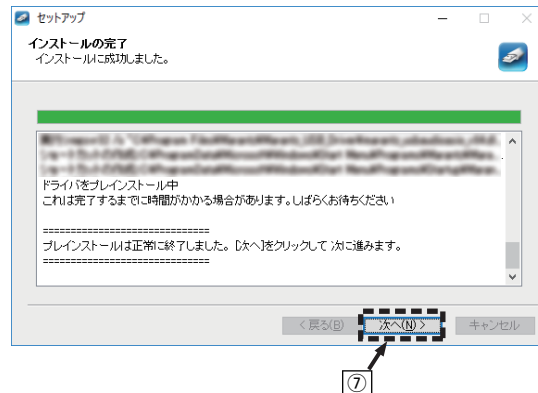


⑥ インストール開始ダイアログの“インストール”をクリックする。

- インストールをはじめます。インストールが終了するまでパソコンの操作をしないでください。



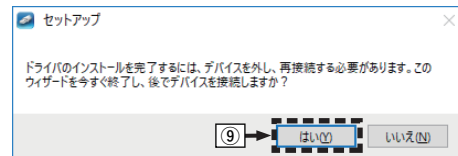
⑦ “次へ(N)”をクリックする。



- ⑧ インストール終了画面を表示したら“完了(F)”をクリックする。



- ⑨ “はい(Y)”をクリックする。



5 本機の電源をオフにしたまま、本機とパソコンを USB ケーブル(別売り)で接続する。

- 接続のしかたは「パソコンまたは Mac と接続する」(P.24 ページ)をご覧ください。

6 本機の **o** を押す。

- 本機の電源がオンになると、パソコンは自動的に本機を検出して接続をおこないます。

7 USB-DAC を押して入力ソースを“USB-DAC”に切り替える。

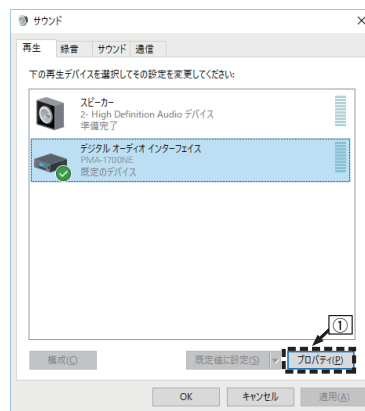
8 インストールしたドライバーを確認する。

- ① パソコン画面の“スタート”をクリックして、“コントロールパネル”をクリックする。
 - コントロールパネルの設定一覧を表示します。
- ② “サウンド”をクリックする。
 - サウンドメニュー画面を表示します。
- ③ “再生”タブの“PMA-1700NE”に“既定のデバイス”のチェックマークがあることを確認する。
 - 他のデバイスにチェックマークがあるときは、“PMA-1700NE”を選択してから“既定値に設定”をクリックしてください。

9 音声出力を確認する。

パソコンからテスト信号を出力して USB-DAC 機能の音声出力を確認します。

- ① サウンドメニュー画面の“PMA-1700NE”を選び、“プロパティ(P)”をクリックする。
 - プロパティ画面を表示します。



- ② “詳細”タブをクリックする。
- ③ D/A 変換をおこなうサンプリング周波数とビット数を選ぶ。
 - “2 チャンネル、32 ビット、192000 Hz(スタジオの音質)”に設定することをおすすめします。
- ④ “適用(A)”をクリックする。
- ⑤ “テスト(T)”をクリックする。
 - 本機からパソコンの音声が出力されることを確認します。

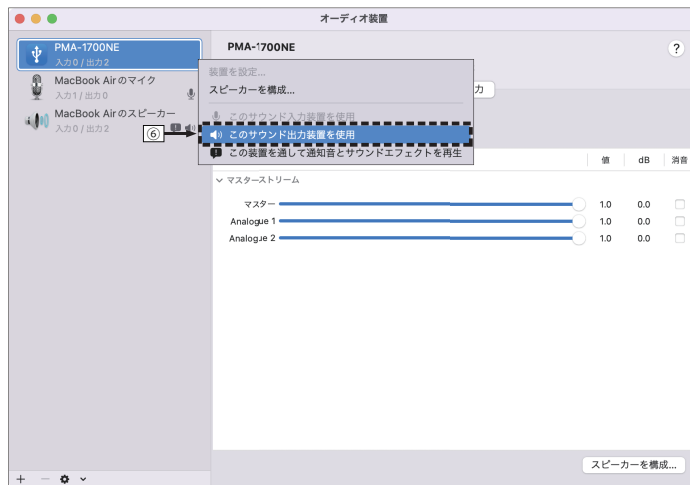


ご注意

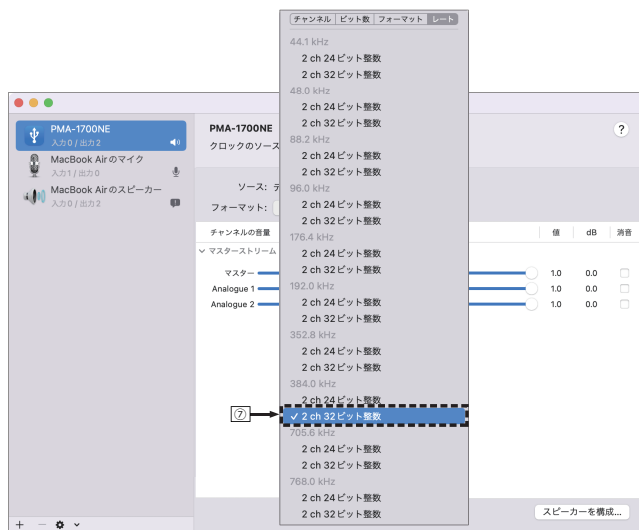
- 専用ドライバーはパソコンと本機を USB 接続する前にインストールしてください。ドライバーのインストール前に本機とパソコンを接続すると正しく動作しません。
- パソコンのハードウェアおよびソフトウェアの構成によっては、動作しない場合があります。
- サンプリング周波数 352.8kHz/384kHz のファイルをダウンサンプリングせずに再生する場合は、ASIO (Audio Stream Input Output) ドライバーに対応したプレーヤーソフトが必要です。ASIO ドライバーでの再生は、ご使用のプレーヤーソフトをご確認ください。
- 本機を使用してパソコンからの音楽が正しく再生できない場合、<https://www.denon.jp/ja-jp/support/home> の FAQ をご参照ください。また、使用するプレーヤーソフトのサポートページもご確認ください。

■ オーディオ装置の確認(macOS のみ)

- ① 本機の電源をオフにしたまま、本機と Mac を USB ケーブル (別売り) で接続する。
 - 接続のしかたは「パソコンと接続する」をご覧ください。
(P24 ページ)
- ② **⏻** を押す。
- ③ USB-DAC を押して、入力ソースを“USB-DAC”に切り替える。
- ④ パソコン画面の“移動”にカーソルを合わせ、“ユーティリティ”をクリックする。
 - ユーティリティの一覧を表示します。
- ⑤ “Audio MIDI 設定”をダブルクリックする。
 - “オーディオ装置”画面を表示します。
- ⑥ “PMA-1700NE”に、“このサウンド出力装置を使用”のチェックマークがあることを確認する。
 - 他のデバイスにチェックマークがあるときは、“PMA-1700NE”を選択してから副ボタンクリックして、“このサウンド出力装置を使用”を選択してください。



- ⑦ “PMA-1700NE”のフォーマットを選ぶ。
- “2 ch 32 ビット整数 384.0 kHz”に設定することをおすすめします。



- ⑧ Audio MIDI 設定を終了する。

■ 再生

あらかじめご使用のパソコンにお好みのプレーヤーソフトをインストールしてください。

本機のリアパネルの USB 端子(USB-DAC)にパソコンを接続してください。(P.24 ページ)

1 入カソース切り替えボタン(USB-DAC)を押して、入カソースを“USB-DAC”にする。

パソコンのプレーヤーソフトで再生をはじめます。

- サンプリング周波数を検出できない場合は、“Unlocked”を表示します。
- 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力した場合は、“Unsupported”を表示します。

■ 再生できる音声信号の仕様

「D/A コンバーターについて」(P.56 ページ)をご覧ください。

ご注意

- 再生、停止などはパソコンで操作してください。本体のボタンおよびリモコンでは操作できません。
- 本機が D/A コンバーターとして機能しているときは、パソコン本体のスピーカーから音声は出力されません。
- パソコンの再生ソフトを起動中に、本機とパソコンの接続をはずすと、再生ソフトがフリーズすることがあります。必ず再生ソフトを終了してから接続をはずしてください。
- パソコン側で異常が発生したときは、USB ケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- 再生ソフトのサンプリング周波数と本機のサンプリング周波数表示が異なることがあります。
- パソコンとの接続には、3m 以下のケーブルをご使用ください。

デジタル機器と接続して再生する (Coaxial/Optical 1/Optical 2)

1 デジタル機器を接続する。(P.23 ページ)

- ### 2 入力ソース切り替えボタン(COAXIAL または OPTICAL 1/2)を押して、入力ソースを“COAXIAL”または“OPTICAL 1/2”に切り替える。
- サンプリング周波数を検出できない場合は、“Unlocked”を表示します。
 - 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力した場合は、“Unsupported”を表示します。

■ 再生できる音声信号の仕様

「D/A コンバーターについて」(P.56 ページ)をご覧ください。

ご注意

- ドルビーデジタル、DTS、AAC などのリニア PCM 以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーが破損する恐れがあります。

録音する

本機に入力した音声信号を、外部の録音機器に出力することができます。本機に接続した再生機器の音声を録音する際、再生機器を本機に接続したまま録音できます。

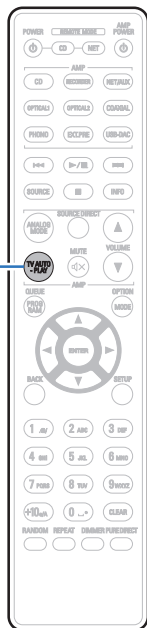
- 1 本体の **⏻** を押して、電源を入れる。
- 2 入力ソース切り替えボタンを押して、録音したい入力ソースに切り替える。
本体のディスプレイに選択した入力ソースを表示します。
- 3 録音をはじめると、録音機器の取扱説明書をご覧ください。
 - 操作のしかたは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

設定のしかた

テレビの自動再生機能を設定する

テレビの音声を本機で再生するときに設定します。テレビの電源オン操作に連動して本機の電源がオンになり、自動的に入力ソースを“OPTICAL 1”、“OPTICAL 2”または“COAXIAL”に切り替えて、テレビの音声を本機で再生できます。テレビを接続した本機の端子名に合わせて設定してください。

TV AUTO-PLAY



1 TV AUTO-PLAY を押して設定する。

- TV AUTO-PLAY を押すたびに、設定を切り替えます。

OPTICAL 1 / OPTICAL 2 / COAXIAL / Off
(お買い上げ時の設定: OPTICAL 1)

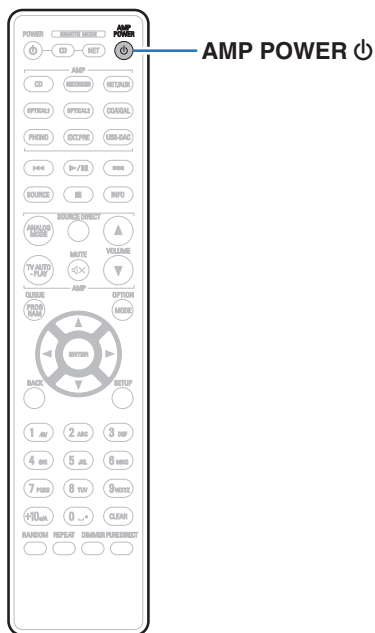


- アナログモードを“ANALOG MODE 1”または“ANALOG MODE 2”に設定すると、テレビ自動再生機能ははたらきません。(P.31 ページ)
- お使いのテレビによっては、テレビ自動再生機能がはたらかない場合があります。
- テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源がオフになることはありません。
- 本機に入力された音声信号のサンプリング周波数が 88.2kHz 以上の場合、テレビ自動再生機能がはたらきません。テレビは一般的に 48kHz の音声信号を出力しますのでテレビ自動再生機能がはたらきますが、88.2kHz 以上の音声信号を出力する機器を接続するとテレビ自動再生機能がはたらかない場合があります。

オートスタンバイモードを設定する

音声の入力がない状態で本機を約 30 分間操作しないとき、自動的にスタンバイ状態になるように設定できます(オートスタンバイモード)。

お買い上げ時は、オートスタンバイモードを“オフ”に設定しています。



1 AMP POWER ㊤ を 5 秒以上押してオン/オフを切り替える。

オン/オフを切り替えるたびに、ディスプレイに次のとおり表示します。

- オートスタンバイモード オン時: ディスプレイに“AutoStby On”を表示します。
- オートスタンバイモード オフ時: ディスプレイに“AutoStby Off”を表示します。

困ったときは

■ 目次

こんなときの解決方法

お好みの音質に調節したい	46
原音に忠実な再生をしたい	46
アナログ入力ソースをより良い音質で楽しみたい	46
バイワイヤリング対応のスピーカーを接続したい	46
本機をパワーアンプとして使用したい	46

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	48
リモコンで操作ができない	49
本機のディスプレイが表示されない	49
音がまったく出ない	50
希望する音が出ない	50
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	51
パソコン内や Mac 内の音楽ファイルが再生できない	52
デジタル機器の音声を再生できない(Coaxial/Optical)	53
入力ソースが“Optical 1”、“Optical 2”または“Coaxial”に切り替わる	53

こんなときの解決方法

お好みの音質に調節したい

- 低音調節つまみ (BASS)、高音調節つまみ (TREBLE)、バランス調節つまみ (BALANCE) でお好みの音質に調節してください。(P.29 ページ)

原音に忠実な再生をしたい

- ソースダイレクトモードをオンに設定してください。(P.31 ページ)

アナログ入力ソースをより良い音質で楽しみたい

- アナログモードをオンに設定してください。(P.31 ページ)

バイワイヤリング対応のスピーカーを接続したい

- 本機はバイワイヤリング接続に対応しています。バイワイヤリング接続をすることで、高品位な再生をお楽しみいただけます。(P.20 ページ)

本機をパワーアンプとして使用したい

- プリアンプを本機の EXT. PRE IN 端子に接続してください。(P.25 ページ)

故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. 接続した機器は正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

電源が入らない / 電源が切れる

電源が入らない。

- コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。(P.26 ページ)

電源が自動的に切れる。

- オートスタンバイモードがオンになっています。音声入力がない状態で約 30 分間本機を操作しないでいると、本機は自動的にスタンバイになります。オートスタンバイモードをオフにするには、AMP POWER 電源 ボタンを 5 秒以上押してください。(P.44 ページ)

電源が切れ、電源表示が長く 1 回赤色点滅したあとに、短く 2 回赤色点滅している。

- 再生機器の再生を停止し、電源を入れ直してください。
- 電源を入れなおしても問題が解決しない場合は、本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。

電源が切れ、電源表示が長く 1 回赤色点滅したあとに、短く 3 回赤色点滅している。

- 本機の電源回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。

電源が切れ、電源表示が長く 1 回赤色点滅したあとに、短く 4 回赤色点滅している。

- 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。
- 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。
- スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。(P.17 ページ)
- 再生機器の再生を停止し、電源を入れ直してください。

電源が切れ、電源表示が長く 1 回赤色点滅したあとに、短く 5 回赤色点滅している。

- 再生機器の再生を停止し、電源を入れ直してください。
- 電源を入れなおしても問題が解決しない場合は、本機のアンプ回路または電源回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。

リモコンで操作ができない

リモコンで操作ができない。

- 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。(P.6 ページ)
- リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。(P.6 ページ)
- 本体とリモコンの間の障害物を取り除いてください。
- 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。(P.6 ページ)
- 本体のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。
- 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

本機のディスプレイが表示されない

ディスプレイの表示が消える。

- リモコンの DIMMER ボタンを押して、消灯以外の設定に切り替えてください。(P.30 ページ)
- アナログモードが“ANALOG MODE 2”に設定されています。ANALOG MODE ボタンを押して、アナログモードを“ANALOG MODE 1”または“ANALOG MODE Off”に設定してください。(P.31 ページ)

音がまったく出ない

スピーカーから音が出ない。

- すべての機器の接続を確認してください。(☞16 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。(☞17 ページ)
- スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子の締めつけが緩んでいないか確認してください。(☞17 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(☞29 ページ)
- 音量が最小になっています。音量を適切な大きさに調節してください。(☞29 ページ)
- ミューティング(消音)モードを解除してください。(☞29 ページ)
- 本体のヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子から音が出なくなります。(☞9 ページ)

希望する音が出ない

特定のスピーカーから音が出ない。

- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。(☞17 ページ)
- バランス調節つまみ(BALANCE)を調節してください。(☞29 ページ)

ステレオ再生のときに、左右の音声が入れ替わっている。

- 左右のスピーカーが正しいスピーカー端子に接続されているか確認してください。(☞19 ページ)

音が途切れたり、ノイズが入ったりする

レコード再生のときに、音がひずむ。

- 針圧を調節してください。
- レコードの針先を確認してください。
- カートリッジを交換してください。

レコード再生のときに、“ブーン”という雑音が発音器から出力される。

- レコードプレーヤーが正しく接続されていることを確認してください。(P.21 ページ)
- レコードプレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあると、再生音に影響を受ける場合があります。レコードプレーヤーをテレビや AV 機器などから離して設置してください。

レコード再生のときに音量を大きくすると、“ワーン”という雑音が発音器から出力される。(ハウリング現象)

- レコードプレーヤーとスピーカを離して設置してください。(P.21 ページ)
- スピーカの振動が床を通してプレーヤーに伝わる場合があります。スピーカの振動をクッションなどで吸収させてください。

パソコンの曲を再生中に音が途切れる。

- パソコンの曲の再生中は、プレーヤーソフト以外のアプリケーションを起動しないでください。

パソコン内や Mac 内の音楽ファイルが再生できない

パソコンで本機が認識されない。

- ご使用のパソコンの USB 端子に USB ケーブルを挿し直してください。挿し直しても本機が認識されないときは、別の USB 端子に挿してください。(🔗 24 ページ)
- ご使用のパソコンを再起動してください。
- ご使用のパソコンの OS を確認してください。(🔗 32 ページ)
- ご使用のパソコンが Windows の場合は、専用ドライバーのインストールが必要です。(🔗 33 ページ)

再生デバイスとして本機が選択されていない。

- パソコンのサウンド設定で、再生デバイスとして本機を選択してください。(🔗 32 ページ)

“Unlocked” と表示される。

- デジタル音声信号を正しく検出できない場合は、“Unlocked” を表示します。(🔗 40 ページ)

“Unsupported” と表示される。

- 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力した場合は、“Unsupported” を表示します。パソコンまたはプレーヤーソフトの設定を確認してください。(🔗 40 ページ)
- ご使用のパソコンが macOS の場合は、“Audio MIDI 設定”で“PMA-1700NE”のフォーマットが“384.0 kHz”以下に設定されているか確認してください。(🔗 39 ページ)

デジタル機器の音声を再生できない(Coaxial/Optical)

“Unlocked”と表示される。

- デジタル音声信号を正しく検出できない場合は、“Unlocked”を表示します。(☞41 ページ)

“Unsupported”と表示される。

- 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力した場合は、“Unsupported”を表示します。ご使用のデジタル機器の音声出力信号フォーマットを確認してください。(☞41 ページ)

入カソースが“Optical 1”、“Optical 2”または“Coaxial”に切り替わる

本機に接続しているテレビの電源を入れると入カソースが“Optical 1”、“Optical 2”または“Coaxial”に自動的に切り替わる。

- リモコンの TV AUTO-PLAY ボタンを押して、テレビ自動再生機能を“Off”に設定してください。(☞43 ページ)

保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。
保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

- 保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料……故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代……修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料……製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

■ 修理を依頼される時

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけず修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼される時

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼される時のために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

付録

D/A コンバーターについて

■ 再生できる音声信号の仕様

□ USB-DAC

	サンプリング周波数	ビット長
DSD (2 チャンネル)	2.8/5.6/11.2MHz	1 ビット
リニア PCM (2 チャンネル)	44.1/48/88.2/96/176.4/ 192/352.8/384kHz	16/24/32 ビット

□ Coaxial/Optical

	サンプリング周波数	ビット長
リニア PCM (2 チャンネル)	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192kHz	16/24 ビット

用語の解説

DSD(Direct-Stream Digital)

音声データ記録方式の1つで、スーパーオーディオ CD にオーディオ信号を格納する信号形態で、 Δ - Σ 変調されたデジタルオーディオです。2.8 MHz のサンプリングレートの単一ビット値の配列で構成されています。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

リニア PCM

圧縮していない PCM(Pulse Code Modulation)信号です。CD の音声と同じ方式ですが、BD や DVD では 192kHz、96kHz、48kHz などのサンプリング周波数を用いており、CD よりも高音質の音声が楽しめます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。
この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ソースダイレクト

入力された音声信号を、音質調節回路 (BASS/TREBLE/
BALANCE) を通さずに出力するため、より原音に忠実な再生がおこなえます。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

主な仕様

■ パワーアンプ部

定格出力:	両チャンネル駆動(CD → SP OUT) 70W+70W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz、T.H.D 0.07%) 140W+140W(負荷 4Ω、1kHz、T.H.D 0.7%)
全高調波歪率:	0.01%(定格出力:-3dB時)、負荷 8Ω、1kHz
出力端子:	スピーカー A または B :負荷 4~16Ω スピーカー A + B :負荷 8~16Ω ヘッドホン/ステレオヘッドホン適合
入力感度/入力インピーダンス:	EXT.PRE:0.84 V/47kΩ ゲイン値:29dB

■ プリアンプ部

入力感度/入力インピーダンス:	PHONO(MM):2.5mV/47kΩ PHONO(MC):200μV/100Ω CD、NETWORK/AUX、RECORDER:125mV/19kΩ
RIAA 偏差:	PHONO:20Hz~20kHz±0.5dB
最大入力:	PHONO(MM):130mV/1kHz PHONO(MC):10mV/1kHz

■ 総合特性

S/N 比(A ネットワーク):	PHONO(MM):89dB (入力端子短絡、入力信号 5mV 時) PHONO(MC):74dB (入力端子短絡、入力信号 0.5mV 時) CD、NETWORK/AUX、RECORDER:106dB(入力端子短絡時)
周波数特性:	5Hz~100kHz(0~-3dB)
トーンコントロール:	BASS(低域):100Hz±8dB TREBLE(高域):10kHz±8dB

デジタル入力信号フォーマット

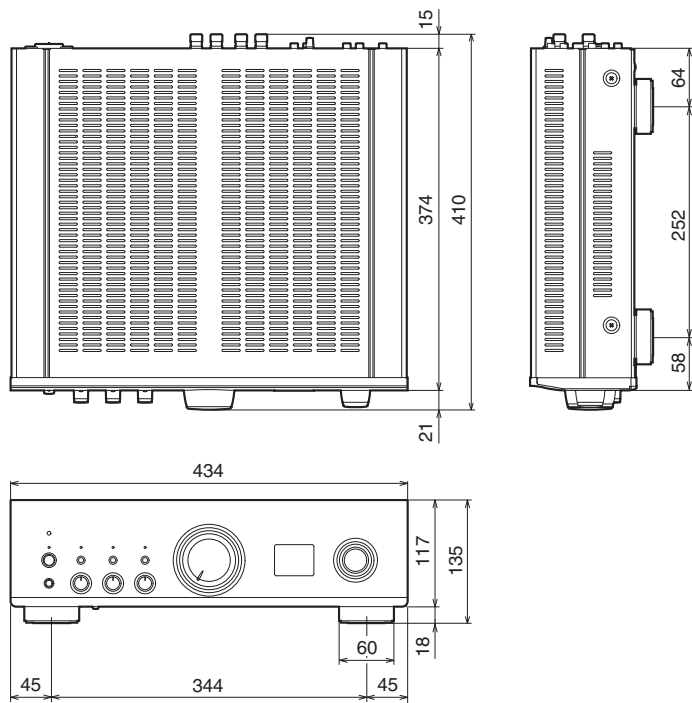
• フォーマット:	デジタルオーディオインターフェース(リニア PCM)
• 同軸入力:	0.5Vp-p/75Ω
• 光入力:	-27dBm 以上
• 波長:	660nm

■ 総合

動作温度:	+5℃~+35℃
電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	295W
待機時消費電力	
• テレビ自動再生有効時:	0.4W
• テレビ自動再生無効時:	0.2W

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

■ 寸法(单位:mm)



■ 質量: 17.6kg

索引

🔊 B

BD プレーヤー 21

🔊 C

CD プレーヤー 21, 23

🔊 D

D/A コンバーター 32

🔊 U

USB-DAC 32

🔊 お

オートスタンバイモード 44

音量 29

🔊 こ

高音 29

故障かな?と思ったら 47

こんなときの解決方法 46

🔊 す

スピーカー 17

スピーカーインピーダンス 57

🔊 そ

ソースダイレクト 31, 57

🔊 て

低音 29

🔊 と

トーン 29

ドライバーをインストールする 33

🔊 に

入力ソース 29

🔊 ね

ネットワークオーディオプレーヤー .. 21

🔊 は

パソコン 24

バランス 29

🔊 ふ

プリアンプ 25

🔊 ほ

保護回路 57

🔊 み

ミュートング 29

🔊 り

リモコン 12

🔊 れ

レコードプレーヤー 21

🔊 ろ


録音機器 22





当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

 0570 (666) 112 または 050 (3388) 6801


FAX : 044 (330) 1367

- 受付時間 10:00 ~ 18:00
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
- お問い合わせをいただく前に、ホームページのFAQをご確認ください。
<https://www.denon.jp/ja-jp/support/home>
- メールでお問い合わせをいただくこともできます。
<https://www.denon.jp/ja-jp/contact-us>

* 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

 0570 (666) 811

- 受付時間 9:30 ~ 12:00、13:00 ~ 17:30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
- 上記番号をご利用いただけない場合  0466 (86) 9520
- 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
https://www.denon.jp/ja-jp/support/service_network

■ 代表修理窓口

首都圏サービスセンター

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 2010-16

FAX : 0466 (86) 9522

* ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。
お持ち込みいただいても受け取ることができませんのでご了承ください。

DENON®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル